

自分にあつた題材さがしから

小網 昇

本年度、応募の方法がかわりましたが、たくさんの作品が寄せられました。その中から古里小六年戸頃 結さんの「水田のオーケストラ」が、内閣総理大臣賞・JA茨城中央会長賞を受賞しました。

この作品は、ごはんとともにクラシック音楽の好きな筆者の米作りと音楽との結びつきや美しいオーケストラの音色とともに、自然環境に対する思いや水田で働く人々への思いがよく伝わってきます。全体的によくまとめられ、表現も適切であり、よく書き直しもできています。

付属中三年丸岡 奈央さんの「祖父の想いを継いで」が全国農業共同組合中央会会長賞・茨城県知事賞を受賞しました。この作品は、農業を営む祖父の回想を通して、米つくりの大切さを具体的に述べています。米つくりに誇りと喜びをもって取り組んでいる周囲の人たちへの気持ちも実体験をもとに語られています。

五霞西小五年渡辺 成泉さんの「おいしいお米がとれる町」が全国展優秀賞・茨城県議会議長賞を受賞しました。豊年エビやコウノトリを通して、豊作について考え、自分の町の自然の豊かさを感じる感受性がよく表現されています。

茨城県教育委員会教育長賞の猿島小三年森下 なな実さんの「わたしのとく意なお手つだい」は、お米をとぐ音で始まる書き出しがよく、読み手の興味を引き付けます。祖母の教えをしっかりと受け止め、実践しようとする素直な気持ちがよく伝わる作品です。

茨城新聞社長賞の立川西小四年加倉田 真央さんの「米は天からのおくり物」は、散歩の途中であった農家の人との会話を通し、朝食のご飯を改めて見直す場面を表現しています。朝の空気や朝日に照らされた水田の様子も生き生きと書かれています。

茨城県農業会議会長賞の日立第一高校付属中二年田口 行翔さんの「ペンションのお米」は、ラグビー部に所属する小食な筆者が、家族旅行で行ったペンションで美味しいお米と出会い、ご飯が好きになる様子が描かれています。日々健康に明るく過ごし、成長していく姿が印象的な作品です。

NH K水戸放送局長賞の那珂湊第二小一年浅野 萌奈さんの「いのちのかたち」は、たくさんのいのちで大きくなっていること、ご飯や魚や野菜には、いのちというまほうがかけられていること等自分の想像を膨らませて書いている所が素晴らしいです。

茨城放送社長賞の結城中一年橋本 穂奈さんの「玄米のパワー」は、小さい頃から食べ続けている母親の作る玄米おにぎりに焦点をあて、玄米に支えられている日常の食生活を詳細に綴りながら、玄米の栄養効果の分析やパワーの源であることを実証している。

健康志向の家族を印象づける締めくくりもすばらしい効果を出しています。

日本農業新聞東京支所長賞の竹島小二年渡邊彩衣さんの「わたしの元気のもと」は、祖父と一緒に初めて田植え機に乗った時の緊張感や田に足を踏み入れた時の不思議な感など田植えを体験した時の様子や気持ちを短い言葉の連続で生き生きと表現しています。

家の光協会関東甲信越普及文化局長賞の下館小三年野澤 陽乃さんの「おばあちゃんの

おにぎり」は、優しい祖母を慕う気持ちや祖母の握るおにぎりの魅力が、一字一字整った文字でしっかりと綴られた作品です。ごはんの良さや家族の結びつきがよく伝わってくる作品です。

すばらしい作品を生み出した児童生徒の皆さん、そしてその周囲でご支援・ご協力くださいましたたくさんの方々に感謝申し上げます。

作文は、よく「料理」つくりと似ています。おいしい料理を作るには、新鮮な素材が必要です。

よい作品には、いくつか共通していることがあります。まずは素材である題材です。

○まず、どんな題材を用意するか、題材さがしから始まります。その題材をどんな構成にまとめていくのかがよく考えられています。

○題名のつけ方、○書き出しの工夫、○情景がよくわかるような会話文を入れること等努力の跡がみられます。

今後もさらに努力して素晴らしい作品が寄せられることを願っております。